

【テーマ】病院と地域の連携について (グループワーク)

	課題	取組案
A 圏域	<p>ケアマネジャーや看護師は様々な施設から来ているため、情報を共有することができる仕組みが必要である。</p> <p>地域の在宅医療側と病院側とで、共通認識ができていない。在宅医療側の事情等を病院側が把握できていない。</p> <p>医療資源マップについて、マップの活用が当該地域に留まってしまっている。病院の強み、出来ること等を、他市の医療・介護関係者が知らないことがある。</p>	<p>共通した情報シートで情報を得られるようにする。区市町村単位で作成するか二次医療圏で作成するかはこれから議論をしていく必要がある。</p> <p>病院主導の研修会等を行い、地域の医療・介護関係者が病院の中に入っていき、率直な意見交換を行う。できるだけ多職種かつ市を越えた広域で行っていくのが良い。</p> <p>地域を越えて医療資源マップを広げていけば、医療・介護関係者がより広域に資源を把握することができる。患者側の選択肢も広がる。</p>
B 圏域	<p>各地域で使用されている情報共有ツールが異なっているため、別の地域から来る患者の情報は別のツールを使って共有しなければならない。</p> <p>在宅医が病院を紹介した後、その後の患者の行き先が追跡できない。</p> <p>病院から退院し在宅へ戻る際には、病院の医師は退院後の患者の生活を考慮して減らしたり飲む回数を工夫するなど配慮し、薬を変更した場合は診療所の医師にも情報を提供してほしい。</p>	<p>都あるいは国で統一的な情報共有ツールをつくる。</p> <p>各紹介状の中に紹介状を添付して次の紹介所（医療機関、施設）に送るようにする。</p> <p>薬を減らしたり変更したりした場合は、病院と診療所間で情報共有を徹底していく。</p>
C 圏域	<p>退院後、他病院への転院あるいは在宅療養へ移行する際に、双方の医師間での情報共有はできているが、元のかかりつけ医や地域のソーシャルワーカー等とは情報共有ができていない。</p> <p>圏域内で情報共有のための共通シートを作成しているが、圏域内で利用されている地域とされていない地域がある。</p> <p>地域で顔の見える多職種の連携を広げていく必要がある。</p> <p>在宅療養中の患者に嚥下障害のある人が多い。</p>	<p>圏域内の共通シートをこれまで以上に周知し、利用を広めていく。</p> <p>病院から他病院へ転院する際の病院間の情報共有シートも分かりやすく使いやすいシートを作って統一していく。</p> <p>病院の医師や管理職等が地域に出向いていく必要がある。</p> <p>歯科医が週1回病院と老健に訪問することで、嚥下性肺炎、誤嚥性肺炎が非常に少なくなるという実例や、病院のSTと栄養士が歯科医師会の歯科医師と協力しながらケアに取り組んだことで嚥下機能が向上された例が多いことから、将来的にそうした取組を在宅療養中の患者にも実施していく。</p>